

令和7年度天草市男女共同参画審議会 会議録

1 日 時 令和7年8月1日(金)14:00～15:40

2 場 所 天草市複合施設こらす 会議室DE

3 出席委員 石井会長、石津委員、泉委員、稲田委員、江口委員、大脇委員、
小田委員、田上委員、森山委員
(欠席:林副会長、益田委員、渡邊委員)

4 会議次第 開会

会長挨拶

議事

(1)「第4次天草市男女共同参画計画」令和6年度事業実施状況について

(2)地域や団体における男女共同参画について(意見交換)

・出会い応縁事業について

その他

閉会

5 会議録 以下のとおり

(1)第4次天草市男女共同参画計画」令和6年度事業実施状況について

(重点目標ごとに事務局より説明。)

●重点目標1『あらゆる分野における女性の参画拡大』について

【質問・意見等】

(委員)・取組No.4について

職員への啓発の取組は素晴らしいと思うが、男女のバランスがとれた配置とはどのようなものか。職場内の男女のバランスがとれていても、子育て中の職員がいれば休みが増えると思うが、その辺りはどのように配慮しているか。

(事務局)

男女のバランスがとれた配置については、各部署における業務において多様な視点や職務・生活経験を活かすこと、全ての職員が広範な業務に従事することで行政職員として多様なスキルや知見を身に付けることなどを目的に職務経験、年代、性別などが異なる職員配置となるよう努めている。

子育て中の職員への配慮については、本人もしくは配偶者が出産予定の職員へ育児休業等の意向を事前に確認。出産・育児と仕事の両立に関して、人事異動上、配慮している。育児休業などで職員が長期間不在となる場合は、課内で業務の調整を行うとともに、任期を定めた代替職員を任用して対応。今後についても、男性も含め、職員が安心して育児に参画しつつ、継続してキャリアを積める環境の整備を進める。

(委員)・取組No.5について

入札参加資格審査項目に「女性の住民の新規雇用状況」とあるが、加点対象の項目として効果はあったか。この項目はいつから設けているのか。

(事務局)

審査項目に設けたのは、平成27年6月から加対象項目としている。令和7年6月の格付では、「天草市に住民登録している女性を令和4年1月1日から令和5年12月31日までの間に新規採用し、継続雇用していること」を加算基準とし、格付業者193者のうち、19者に対し1人につき5点の加算を行った。新規雇用をしたうえで、一定期間の継続雇用をしている事が必要となるため、女性の活躍推進に一定の効果があると考えている。

(委員)・取組No.10について

対象者のニーズ、ビジョンが見えてこない。対象者や目的が明確であれば、参加者が増えると思うが、どのような意図のセミナーだったのか。女性の個人事業主も増えているが、対象としていなかったのか。

(事務局)

対象は市内の事業所の管理職・人事担当者・従業員と幅広く設定をしていた。目的は、女性特有の月経前症候群や更年期などの身体のリズムを理解し、より健康に仕事を続けて行くためワーク・ライフ・バランス、女性活躍推進についてのセミナーとしていた。しかし、開催の周知については、商工会を通じて事業所への周知依頼、ホームページへの掲載、市施設へのチラシ設置など行ったが、申込者がかなり少なく中止とした。原因として、対象者及び、内容がぼやけていたことに合わせ、周知期間が短い上に商工会にお任せしたことで、こちらの意図が伝わらなかったためと考える。今後は、関係部署との連携を図り、目的をはっきりとさせた内容を提案するよう努める。

(委員)・取組No.11について

パネル展で掲示して終わりではもったいない。育休取得に向けたパパ向けの講座があってもいいのではないか。成果として妊婦のための支援給付、妊婦等包括相談支援事業のうち、妊婦8カ月面談では、妊婦だけでなくパパも同席して、プレパパ向けの支援も行っている。これについても成果としてあげられるのではないか。

(事務局)

パネル展につきましては、掲示して啓発しただけとせず、関係部署と連携し、パパ向けのライフデザインセミナーやアンコンシャスバイアス等の講座についても実施したい。ご意見のとおり、パパに対して育児指導等の実施や、父親向けの講座を開催しているので、取り組みとしてあげていきたい。

※参考 パパ手帳の配布数(母子手帳申請時に希望者へ配付) 令和6年度 24冊

(委員)

市役所における管理的地位の女性の割合と監督者の割合について、別紙資料に国と県と八代市の比較がされていますが、天草市の場合、管理的地位の女性の割合は比較的高いが、監督職の部分が他のより低い。おそらく県と八代市を見ると監督者の部分が4分の1、25% 超えている。女性の割合がそうすると当然、この人たちが上に上がっていくと思うので1年、ないし2年のうちには もう10ポイント以上の差がつくのではないか。係長、課長補佐にならないと上にはいかない。個人的な意見だが、人材や意識は『職』が人を作る。その立ち位置になれば、視点も変わる。男性が今まで培ってきたのはその違いだと思う。たくさん能力

のある若い人たちがいるので、女性だけではないが、ぜひ登用率が上がるよう、総務課に伝えてほしい。

(事務局)

この部分については、総務課に確認をした。確かに他の自治体に比べて監督職のパーセントは低くなっている。しかし、年で比べると、昨年度が15.9%だったところが令和6年度19.7%に監督職のほうが上がっている。委員がおっしゃるように監督職から管理職に上がるため、現在、特に監督職の登用に力を入れている。まだ監督職に行かないような30代40代の女性職員についても、事業部署に登用して、女性の監督職の卵がたくさんできている。今後、数値として上がってくると考えている。

(委員)

私も管理職と監督職についてお聞きするが、先日、議会だよりで質問が掲載されていたが、その中で管理職18%、監督職19.7%と女性の登用は高くないのかというような質問に対して、回答が、専門職員への派遣や職場環境の整備を積極的に取り組むこと、また仕事と家庭の両立に向けた早出・遅出勤務制度の導入を検討するということだった。この早出・遅出勤務制度は職員からの声から導入を検討しているというような回答だったのか。

(事務局)

早出・遅出勤務は今年度から運用している。恐らく若い職員のニーズもあって採用したものと思う。特に市長も職員の働き方を見直し、弾力的な働き方とすることで、働きやすい環境を整えるとしている。

●重点目標2『男女共同参画の視点からの安全安心な暮らしの実現』について

【質問・意見等】

(委員)・取組No.17について

女性委員を任命してあるが、防災会議での発言の機会はあったか。市の防災計画を定められているが、その防災計画は女性委員の意見が反映された計画となっているのか。男女共同参画では、防災に女性の視点をと、様々な取組がされているが、実際のところ、防災部門ではどのような内容になっているのか。女性は避難所で炊き出し要員の位置づけでだけで終わってはいないのか。

(事務局)

防災会議での発言については、議題ごとに意見を求め、委員に発言を求めた。防災計画の内容についてだが、地域防災計画は災害対策基本法に基づき、市町村がそれぞれの実情に合わせて作成する災害対策全般に関する基本的な計画の事。国や県の施策の変更や関連する法令等の改正などを反映させている。各委員からいただいた意見については、計画を運用する段階で反映できるよう関係機関と協議できるようにしている。防災に女性の視点を取り入れるという事に関しては、女性を含めた様々なニーズに対応し、備蓄品等においても関係機関と連携をとり準備をしている。実際、災害が起きた時には、避難所運営や物資の配付、情報の伝達など多岐にわたって様々な視点が必要となる。今後も様々な意見が反映できるよう取り組んでいく。

実際、防災会議に参加しているが、災害時の避難所運営については、各自主防災組織で定められた防災計画をもとに運営をされることになる。会議の中で2つの地区の防災計画を紹介されたが、新たに作成され

た計画には男女共同参画の視点を取り入れた内容となっている。今後、自主防災組織で計画の見直しの際に男女共同参画の視点に立った内容となるよう、担当課とも情報共有した。

(委員)・取組No.20、21について

若年妊婦の数、中絶数に変化はあったか。相談窓口の認知度、相談数に変化があったか。

(事務局)

若年妊婦の数は、10代の妊娠届出件数は、令和4年度 5人(1.5%)、令和5年度 8人(2.2%)、令和6年度 3人(0.9%)と、直近3年間で見ると令和6年度は減少した。人工中絶数の把握は出来ていない。相談窓口については、本庁及び牛深支所に女性相談支援員を配置し、女性の関する様々な心配ごとの相談に応じている。相談件数は増加傾向にあり、令和5年度は延べ138件だったのに対し、令和6年度は延べ257件。相談窓口の認知度については、市のホームページや中高生に配布している「デートDV防止リーフレット」に掲載するなどの広報活動に加え、警察署等の関係機関との連携を通じて、認知度は高まっていると考える。相談件数についても、関係機関への同行や家庭訪問などを行い、アウトリーチしたことで、大きな効果をあげていると考える。

(委員)・成果指標について

成果指標の「外国人居住者が天草での生活に満足している割合」について、令和5年度 92.9%、令和6年度 85.2%に低下しているが、その理由。もしくは令和5年度が急上昇した理由。また、調査の対象者は。

(事務局)

令和6年度に満足度が低下した理由として、アンケートの対象者の増加に伴い、回答数及び回収率ともに増加し、回答も多様化したことが低下の要因と捉えている。令和5年度に満足度が増加した要因として、設問の選択肢から「普通」という項目を削除したためと考えている。設問の変更に伴い、比較はできない。調査対象者は、令和6年度については、2024年11月30日時点で天草市に在住する18歳以上の外国籍居住者。

(委員)・取組No.30について

子育て支援について、ニーズの増加と共に支援員が不足している。支援員を増やすために市主催での研修会の開催など、今後の取組について。

(事務局)

国から訪問支援員の研修動画が提供された。この動画は国が研修の必須要素として定めた項目を網羅した内容となっており本市として、この動画を活用した研修会を実施したい。現在、国にその内容について確認を行っているところで、今秋を目途に研修会を実施する予定。

(委員)

防災については、各団体でも防災については取組がなされている。私が所属している天草市ボランティア

連絡協議会は毎年ボランティアで防災研修を行っている。今年度については、市防災監の防災カードを使った研修を受けた。今後も引続き、この研修を実施していく。女性相談員の専門性というところでは、相談件数も多くなっているがコロナ禍の後、100件から200件までの数に増えたのではと思う。コロナ禍では相談もできなかったが、コロナ禍が終息して相談件数も増えた。それとDV防止の啓発としてデートDVに関するリーフレット配布となっているが配布のみでDV防止につながるのか。女性相談員を交えて中高生や先生たちにも周知してはどうか。

(事務局)

DVは私たちが見てすぐ分かるものでもなく、受けてらっしゃる方が声を出せるかというところでも難しいところでもある。本市の子ども家庭課でも女性相談員や女性のための無料法律相談なども行っている。女性のお手洗いには相談に関しての啓発カードも設置しているが、なかなかそこから前に踏み出せない方もいらっしゃると感じている。男女共同参画課として、直接相談を受けることはないが、関係する課と連携してできる限りの支援をしたい。

●重点目標3『男女共同参画社会の実現のための意識改革』について

【質問・意見等】

(委員)・取組No.32、11について

アンコンシャスバイアスについて、認知度を数値化することはできないか。例えば、市の公式LINEを活用して、アンケート調査を実施するとか、クイズを実施して正解率を出すとか、いろいろと方法はあるかと思うが。

(事務局)

パネル展を実施に併せ、簡単なアンケートの実施や、市の公式LINEを活用した啓発について、内容等検討し、出来るものから始めたい。

(委員)

「無意識の思い込み」(アンコンシャスバイアス)についての啓発方法の1つとしてパネル展を実施しているが、各地域で開催される文化祭やイベント時に貸出することはできないか。

(事務局)

事前にご連絡いただければ、対応は可能。各支所の担当者を通じて、こちらから地域に出向いて、啓発活動をするような体制づくりをしたい。

(委員)・取組No.33について

評価が他者とのかわりに偏っているのが気になる。他者を思いやることは大切だが、まず自分が大切な存在であると感じる子の割合、自分の身体は大切であるとのくらい理解できているかなど、子どもたちの目線の評価指数もあるといいと思う。

(事務局)

ご指摘のとおり、他者との関わりを重視することは非常に重要だが、同時に自己肯定感や自己理解を育む

ことも、幼児期の発達において欠かせない要素と考えている。子どもたちが自分自身の存在価値や身体の大切さを理解することは、他者を思いやるための基盤。今後の評価においては、自己理解の促進として、子どもたちが自分自身の事について話し合う機会を増やし、自己認識を深める活動を取り入れ、自己肯定感の評価としては、子どもたちが自分を大切な存在と感じているかどうかを評価するために、振り返りシートや感情カードを使って、子どもたちの気持ちを可視化する方法を検討したい。子どもたちが自分自身の大切さを感じつつ、他者を思いやる気持ちも育むことができるよう努めたい。

(委員)

基本的に、他の課は、それぞれの政策とか事業があって、そこに男女共同参画の視点を入れていくっていう事になると考える。しかし、男女共同参画課は、他の課とは位置づけが若干違い、男女共同参画の意識を上げるとか、女性の活躍推進を行ったりするところだろうと思う。少し厳しい意見だが、去年は男女共同参画課の事業が少し薄かったのかなと感じた。ミカさんの講演会を、私も聞いたが、参加者もそんなに多くはなかった。参加者が少なくても内容が良ければ、定員10人を5回開催するとなど打っていけば、人材は育っていく。そのあたりが、まちづくりの講座を聞いても、感じる場所だった。女性が講師をするから男女共同参画ではない。期待値を込めて、令和7年度はもう少し底上げをして、人材を作りたい。

それと、学校教育と子どもの子育ての部門にお願いしたいが、男女共同参画の人権というところで、他者を思いやるとか、自分の肯定感を上げるとか、最近の一番の課題は、プライベートゾーンの大切さ。その辺りをもう少し子どもたちに直に教えるべきだと思う。今までの人権教育も、とても大事。保育園、幼稚園から、保育の一つのプログラムとして、先生方にも項目を設けて、実施していただくように、お願いしたい。

(事務局)

今、いただいたご意見については、学校教育課に伝える。ステップアップセミナーについては、実際、参加者40名程度だった。内容は、来ていただいた方が前向きな考え方になったなど、こちらの意図が伝わったと感じたが、参加者が少なく、広く伝えることができなかった。事前に高校生や20代の若い世代にアピールできるような内容を検討し、女性の活躍推進のための人材づくりを進めたい。

(委員)

経営者の意識改革の促進で、周知が不足で参加者が少なく開催できなかったということだが、伝えたいことではなく、女性の活躍とか、いろんな女性の能力を発揮することで、企業がどう変わっていくのか。その視点で、セミナーを打たないと企業は動かない。提案ではなく企業にとってメリットとなるようなテーマを設けていくとよいのではないかな。先ほどの意見も同じだが、もう少しターゲットを絞って、テーマを変えてもいいと思う。

(2) 地域や団体における男女共同参画について(意見交換)

・出会い応援事業について(事務局及び委託業者からの説明)

議題とした経緯

男女共同参画課で行っている結婚支援について、結婚には男女共同参画視点が不可欠である

との認識から、婚活をテーマに当事者や周囲の理解促進を図る目的として行っていることについて、審議会の意見を伺う。

【意見等】

(委員)

私は話を聞いて納得した。子育て支援課などが婚活をやると先に“子ども”。“子どもを産んで”となる。それはちょっと違う。子どもができない人もいるし、子どもを持ちたくない人もいる。そこは個人の自由。ただ、男女共同参画課がやるというのは非常に意味がある。自分を掘り下げて自己肯定感というか自分を納得させて相手に求めるもの、それから自分の生き方を振り返って相手に何を自分は必要とするのか、人としての幸せを導くためのセミナーを1番目に持ってくることは非常に意義のあることだと思う。あと2番目3番目は自分に自信を持たせて、良い出会いの場になればいいと思うし、最終的には市民の幸せにつながる。男性が今までのような生き方しなくても私がやるよっていう女性がいてもいいし、僕がやるよっていう男性がいてもいい。そこは2人の幸せの導き方なので、私は納得した。是非、このような視点をどんどん表に出して自信を持ってやっていただければいいと思う。

(事務局・委託業者)

お寺をお借りして同じ内容の講座を実施しているが、ただただ人生の棚卸しをしたいといって講座を受講しに来られる方もいる。婚活というよりも自分の人生を振り返りたいと60代の女性が参加されたこともある。あまり結婚、婚活というよりも人生を振り返るというような捉え方をしていただいてもいいと思っている。

(委員)

私もすごく興味深い取り組みだなと感じていて棚卸しというのが、今まで家族の中で体験してきた当たり前のことというのが家族文化といわれている。結婚というのは異文化体験だというふうに言われているので、海外との異文化ということではなく、やはり自分の家族文化を持っていて、同じ地域に住んでいたとしても違う家族文化を持っている。それをどうすり合わせていくかというのが結婚生活だというふうに言われている。家族文化って当たり前だからやはり無意識であることが多く、自覚をしていないことが多いと思うが、それを何か意識することがすごく面白いなと思った。いい家族文化もあれば、それこそ課題となるDVとか虐待を受けて育ってきた子どもにとってはそれが当たり前になってしまっている。当たり前の文化の中で、なかなか逃げることや解決というところにつながっていかないというようなところとも結びついているというふうにも思う。まさに男女共同参画のテーマそのものというふうに私は感じた。

(委員)

何年間か実施されていると思いますが、その成果については、教えて欲しい。

(事務局)

昨年は3回イベントを実施し、6月と10月はマッチング率が100%、8月は80%。今年度は6月に開催したが、70%となった。イベントの1週間前には、男性と女性それぞれに事前セミナーを行い、参加者のスキルアップを図り、自分の未来設計を考えた上でイベントに参加してもらっている。

担当としてみていますが、事前セミナーを受けた男性陣の服装や身だしなみ、話し方、心構えが1週間でこれほど変わるのかと実感し、驚いている。実績として、カップル数は増えているが、成婚に至るまでには至らないのが現状。近所や企業内に独身の方がいる中で、「結婚しないのか」と言うのが難しい時代になっている。結婚を希望している方には結婚してもらいたい、その前に自分の生活スタイルや結婚観を見つめ直し、

自分の未来について考えることが重要だと考える。参加者が自らの考えを持った上でイベントに参加することで成果につながっていると感じている。今年度 1 月には、イベントとは別に「ライフデザインセミナー」を予定している。対象者については、当初は独身の方限定で考えていたが、参加者数の予測が難しいため、対象者の枠を拡げて地域の方や親世代、結婚を考えていない独身の方々も対象とすることを検討している。男女共同参画の意識改革というところでの啓発として取り組みを進めていきたい。来年以降は、地域に入り込んだ取組とするような検討をしている。準備が整えば、お知らせする。

(以上)